

第1回看護研究会 (新任看護師教育研修会)

- 日 時 令和7年6月6日(金) 10:00~15:55
- 開催方法 ハイブリッド開催(会場:岡山県医師会館)
- 出席者 33病院210名(うち会場15病院90名)、委員10名

新任看護師を対象に、午前中は、医療人としての基礎・資質を高める研修として、社会人・医療人としての心構えやマナーについて、午後からは、へこたれずに仕事をこなす13の方法についての講演があった。両講演とも参加者と対話形式で進められた。

講演 社会人・医療人としての基礎・資質を高める

[コミュニケーション&マナーの習慣づくり]

講師 おかやまアナウンス・ラボ株式会社 森田 恵子 代表取締役



社会人としての心構え、マナー、コミュニケーションスキル、そして報告・連絡・相談の重要性についての講演であった。

社会人と学生の違いは責任と目的意識であり、医療人としての心構えは、患者を主体に考え、社会における医療の役割を捉えることなどが挙げられた。これらの心構えは、PDCAサイクルを回しながら習慣化していくことが重要である。

次に、マナーは相手への思いやりを形にすることであり、型を覚えるだけでなく、目的を意識して実践し、周囲からの信頼を得ることが重要である。第一印象は3秒で決まり、見た目(表情、服装、髪型など)が重要であるが、それは変化するものであり、継続的なコミュニケーションが大切である。

コミュニケーションにおいては、様々な言葉遣いがある中で、特に敬語は使いながら学ぶこと、特に新人時代は積極的に使用し、間違いを恐れず、指摘を受けながら修正して

いくことが重要である。中高年になると指摘を受ける機会が減るため、新人のうちに正しい敬語を身につけることが将来のコミュニケーションスキルの向上につながる。尊敬語や謙譲語を覚えるよりも、丁寧語「ですます」で文末までしっかり話すことを意識する。

報告・連絡・相談は情報共有を目的としたものであり、問題が生じた場合は速やかに共有し、助けを求めることが重要である。聞くこと、質問すること、そして共有することが大切である。

最後に、日々の業務の中で困ったことや失敗したことはメモを取り、先輩への相談のきっかけとするようアドバイスが送られた。これは、自身の成長だけでなく、チーム全体の質向上にも貢献する行動であると言える。

(看護研究委員 井上マサヨ)

講演 看護の大海原を航海する -へこたれずに仕事をこなす13の方法-

講師 愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 内藤 知佐子 助教



へこたれずに仕事をこなすには方法がある。人間の抱える悩みは、全て「自分との関係」あるいは「他者との関係」という対人関係である。その中で大切なことは「自分との関係」である。まず、自分の思考タイプをしっかりと把握することが必要だ。物事を否定的に捉えがちな場合には、その捉え方をリフレーミングし、肯定的に受け止めることが求められる。ポジティブ変換を意識することが、物事の見方を大きく変える。

私たちは日々さまざまな経験を積むが、経験しただけで終わらせず、内省する姿勢が重要である。振り返りはとても大切であり、「やりっぱなし」では人は成長しない。日々、自分自身と向き合い、振り返りの時間を持つことが大切だ。

人は必ず伸びる存在であり、自分自身を知ることが重要である。自信がないときは、まず目の前のことに丁寧に取り組むことが大切だ。それだけで物事が上手くいくことも多い。全て

は将来につながっている。誰にでも起こりうる自然の現象にリアリティショックがある。目の前の一つひとつを大切にこなし、ひとりで抱えないことで乗り越える。マイナスな感情が出てきたときは、それを優しく受け止め、できない自分を許すことも必要である。相手を変えようとするのではなく、自分自身が変わることを意識する。どんなときも自分を信じる力、つまり自信を持つことが大切だ。自信を育てるためには、自分の本当の気持ちを大切に、決めたことをきちんと実行することが求められる。結果よりも、過程にしっかりと目を向けることが大切である。

当たり前と思っていることを当たり前とせず、すべての出来事に感謝の気持ちを持つことが自信を育てることとなる。すべての出来事は自分へのギフトである。

(看護研究委員 柳本亜由美)